

認知症カフェの現状と課題について意見を交わす関係者たち
(京都市下京区のホテル)



下京で講演・意見交換会

認知症カフェ 現状考える

「認知症を考える会」が1日、京都市下京区のホテルであり、京都府内で認知症の人や家族が集う「認知症カフェ」の運営に携わる人たちが、それぞれの取り組みや課題について意見を交わした。

洛和会ヘルスケアシスのような事業をすること
テム主催。認知症カフェで、商業と見守りの両立
の関係者3人が現状を紹介ができる」と提案した。
介した。 洛和会ウィラ大山崎施

京都市日ノ岡地域包括 設長の加藤浩樹さんは、
支援センター長の堀田晃 2年前から大山崎町で開
平さんは「かつて酒屋や くみんなどでいこカフェ」
米屋が配達の際に自然と について説明。「要介護
行っていた地域の見守り 者など誰もが集える場所
がなくなりつつあるが、となり、地域とつながり
既存の店で認知症カフェ りができた」と話した。

「地域とつながりできた」

「専門学習必要」課題も

一方、上京区で開設する「オレンジカフェ今出川」のボランティアスタッフ元廣敦子さんは「ボランティア同士で専門性を身に付ける学習が必要」と課題を挙げた。

コメントーターを務めた京都大医学部付属病院神経内科の武地一医師は「カフェのように、認知症の早い段階で相談しやすい場所を作ること、さまざまなケアにつなげることできる」と述べた。

(逸見祐介)